アジアの土
50周年特別号①
10
2023
#192

アジア学院の50年の道のりは決して平坦なものではなく、ビジョン実現のための試行錯誤、試練と挑戦の歴史そのものでした。この号ではアジア学院の50年をたどってみます。

共に生きた50年

荒川 朋子（校長）

アジア学院の50年の歴史を俯瞰して浮かび上がってくるのは、アジア学院がモットーとして掲げている「共に生きるために」を生きる苦悩と喜びでしょうか。アジア学院の目指す「共に生きる」とは、身近にいる人々との共生を意味するだけでなく、広く「土と、人と、神と共に生きる」ことを示しています。アジア学院の創設の中心にいた故髙見敏弘牧師は、それは「神と、人と、神のつくられたすべての創造物とが、ともにいのちを分かち合っている状態」であり、「今の世代の友人や隣人と共有するだけでなく、未来の世代の人々ともそうしていくこと」だと言いました。アジア学院の歴史とは、その具現化のため、多くの協力者の知恵と支援とを得ながら、その時にできうる最大、最良の方法を模索して歩んできた苦悩と喜びの軌跡ともいえます。

アジア学院の歴史が「土と、人と、神と共に生きる」ことへの挑戦の記録であるならば、土、人、神という3つの視点からその歴史を見てみるとどうなるのか。「土」においては、有機農業の実践、生物多様性が豊かな環境作り、食料主権の獲得、いのちと食を中心に据えたフードライフの構築、「人」においては、多文化コミュニティの形成、サーバントリーダーシップの実践、アジア学院を通じて世界に広がったネットワークの構築、そして「神」においては、神への信頼、キリスト教教会と信徒との交わり、他宗教理解と協力等々の歴史が見えてきます。そして同時にこの小さな学校がたどってきたとは思えないほどの範囲の広さと深さに驚かされます。

それではなぜ、そんなことが可能だったのか。私はその理由もまた、「共に生きるために」というモットーにあると思っています。アジア学院はその出発点において、第2次世界大戦中に傷ついたアジアの隣人たちへの贖罪の願いがありました。そこから、実際の共同生活の中で繰り返し行われてきた数え切れないほどの赦し、赦される経験、多くの方々の「共に生きる」ことへの賛同と参加の上に、今のアジア学院があります。このことを覚え、この50年の歩みを心に刻んでいきたいと思います。

私たちは、自然の恩恵に生かされながら、時にはその猛威に翻弄され、
人に仕えることを学びながら、人に支えられていることを知り、
信仰に生きる苦悩を味わいながら、喜びを分かち合い、
共に成長してきました。その軌跡を振り返ってみましょう！

2023
創立50周年を迎える

2007
平和シンポジウム開催

ユネスコ・アジア文化センター国際交流相互理解事業として、平和シンポジウム「土からの平和」を学院で開催。(2009年には「土からの平和」IIを開催)

2014 - 2015
卒業生調査実施

40周年記念事業を受け、世界に散らばる卒業生たちの活動の影響調査を実施。12カ国229名の卒業生を現地に訪ね、報告をまとめた書籍『農村指導者たち』も出版されました。

2018
卒業生アウトリーチ部門設置

2022
パンデミックが明け、入学者数回復

コロナ禍の渡航制限が徐々に緩和され、本科生31名、研究科生5名、計36名の学生を迎え入れることができました。卒業生の累計は1,399人となりました。

2001
アメリカの大学からのインターン受入開始

2005
青年海外協力隊技術補完研修受託開始

以後2018年までに171人が研修に参加

2004 - 2007

インド・アラハバードにて「持続可能な環境保全型農業の構築と草の根パイロットプロジェクト事業」実施（JICA草の根技術協力事業）

2012
寄付により施設を再建

2015 年度までアジア学院震災復興プロジェクトを実施。国内外から寄せられた災害復興募金は 5 年間で 8 億 2 千 7 百万円にのぼりました。 4 つの新校舎（農業研修棟兼管理棟、男子寮、コイノニア〔教室、食堂、図書室、会議室〕、チャペル）と職員住宅 4 棟の建築、女子寮の改修を行うことができました。

2020
パンデミック
国境封鎖により入学者激減

新型コロナウィルスのパンデミックが発生。日本を含む世界各地で国境が封鎖され学生の出入国ができないという事態が起こりました。2020 年度の入学者は、本科生 10 名（内日本人 2 名）、研究科生 1 名、2021 年度は本科生 4 名（内日本人 3 名）にまで減少。それでも少人数で濃度の高い研修を続けました。職員・ボランティアたちは知恵を出し合い、オンライン活用や地域とのつながりを活かした授業、新しい生活様式への適応など、柔軟且つクリエイティブにこの難局を乗り越える努力をしました。

アジア学院の受賞歴

長年の取り組みが社会的に広く認知され、
栄誉ある賞を数多く受賞しました。

1988　外務大臣賞
1989　第 5 回国際交流基金 地域交流賞
1996　マグサイサイ国際理解賞（髙見敏弘）
1998　栃木県経済同友会 社会貢献活動特別賞
2001　第13回毎日国際交流賞
2006　第5回井植記念アジア太平洋文化賞
2009　朝日社会福祉賞
2019　テキサスキリスト教大学グローバルイノベーター賞
2019　第12回かめのり賞人材育成部門受賞

2011　東日本大震災 被災

那須塩原市での震度は 6 弱。本館、コイノニア、女子寮、男子寮などに甚大な被害が発生。東京電力福島第一原発爆発事故の影響により放射能漏れが発生。混乱の中、東京都町田市の農村伝道神学校の施設の一部を借りて研修を継続しました。

地域の人々と、放射能の問題とともに生きていく覚悟を決め、学院内の除染作業に取り組み、隣接する那須セミナーハウス内にアジア学院ベクレルセンターを開設。学院産の農産物をはじめ、地域の食品などの放射能を測定する拠点となっています。

2000年代

研修の基本コンセプトが見直され、より学生主導のカリキュラムへと進化していきました。記念シンポジウムや平和シンポジウムの主催、JICAとの協力など、国際理解と平和運動の推進者として国内外でリーダーシップを発揮し始めた時期でした。

2010年代

卒業生の累計が1000名を超え、堅調に成長を続けていた矢先、東日本大震災が発生。施設損壊と放射能汚染。襲いかかる多重の災厄に一時絶望的な状況に陥るも、多くの人々の献身と支援により復興。誰もが土、人、神と、自らのつながりを省みました。

2020年代

パンデミックによるロックダウン、3 密回避要請は、海外からの学生との共同生活を基盤とするアジア学院にとって活動の根幹を揺るがす危機的状況を生みました。50周年を無事に迎えた今、新たなビジョンを打ち立て、視線は未来のゴールへと向けられています。

振り返ろう! アジア学院の50年

土、人、神
と共に生きた
50年

1973 アジア学院開校

農村伝道神学校から東南アジア科が独立し「アジア学院」が開校されました。１期生は６カ国10名（内日本人６名）。

地元の協力者の献身的な功労により、栃木県西那須野町（現那須塩原市）に６ヘクタールの土地を取得。プレハブ建ての校舎からのスタートでした。日本のNGOの草分的存在として、ここに誕生しました。

技術者を海外へ派遣するのではなく、草の根のリーダーを日本に集めて育成し、帰国後母国のコミュニティのために貢献するという支援のあり方と、農的共同体をベースにした研修内容は、世界的にみても革新的でユニークなものでした。

1974 有機農業開始

1976 初のアフリカ人学生参加

1980 北日本研修旅行開始 （1992年終了）

1981 フードライフ（食べものといのち）がカリキュラムの中心に

1982 キャンパスの『エコシステム』概念の紹介

1983

食堂棟焼失、新食堂コイノニア建築

原因不明の火災により食堂棟が全焼。
1984 年に新食堂棟「コイノニア」が完成。
以後、毎晩夜警（ナイトパトロール）を実施しています。

1985
足尾銅山公害問題学習開始

1986
馬頭学校林プロジェクト開始（2023年まで）

1989
（山形県）置賜百姓交流会との交流始まる

1992
西日本研修旅行で（熊本県）水俣へ訪問が始まる

1993
ボカシ肥、養魚、バイオガスが始まる

1994
東北農村地域研修開始（山形県、秋田県、岩手県）

1995
サンタリータ・トレーニングセンター完成

フィリピン・ネグロス島にアジア学院のトレーニングセンターが完成。海外の現地団体との協働プロジェクトを開始しました。（2003年終了）

黎明期 〜 1970年代

アジア学院の前身は1960年に農村伝道神学校（東京都町田市）に設置された「東南アジア科」でした。第二次世界大戦において日本の諸教会が戦争協力に加担したことへの贖罪の歩みとして、東南アジア諸国の農村指導者育成を目的に始まりました。

1980年代

カリキュラムには、土・自然と調和して生きるための様々な実践的授業が組み込まれ、飛躍的に成長した時期でした。「食べものといのちは切り離せない」フードライフの理念は今も研修の核をなしています。全国の実践者との交流も深まりました。

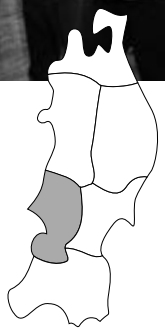
1990年代

学生の国籍や信仰が多様化する中、研修と共同生活はより共生、自給のあり方を模索しました。この頃から、学院の活動が社会的に高く評価されるようになりました。内外からの期待に応えるべく活動拠点を海外に拡大する試みもなされました。

2023研修 中間 レポート

Rural Leaders Training

【写真１】庄内：養鶏農家・佐藤直樹さんの鶏舎にて
【写真２】置賜：たかはた共生塾での交流会
【写真３】那須塩原：那須疎水の開拓の歴史を学ぶ
【写真４】庄内：東田川文化記念館にて



4年ぶりの東北研修

2023年度の研修は、3月末から学生たちがやってきて順調に始まりました。学生数は本科生13ヵ国26名、研究科生が2ヵ国3名です。まだ若干の制限はありつつも、かなりの部分がコロナ禍前に戻りつつあります。学院での授業や実習は、ほぼ以前の通りの形に戻っています。同時に、コロナ禍で新たに「学んだ」ことも取り入れて、学院の研修は進化しています。例えばオンラインで学生の発表を送り出し団体の方々にも見ていただくことなど、以前は考えもしませんでした。また地元栃木での見学研修が増えたのもコロナの間での変化の一つです。

今年は、実に4年ぶりに東北での研修を一部復帰させることができました。以前のように2週間近くの滞在とはいかないものの、5日間にわたって東北地方での研修を行うことができました。学生たちは2グループに分かれ、主に山形県置賜地方と庄内地方に滞在して研修や交流を行いました。70年代から有機農業運動の盛んなこの2つの地域では、農業技術のみならず農村におけるリーダーシップを学ぶことができます。リーダーシップの実践、既存組織とのかかわり、農家グループの活動の他、行政の中からの変革も一農家としての葛藤も、すべてが今まさに農村で働いているアジア学院学生たちにとっての「生きた教本」となっていきました。ここでの学びをそのままコピーするのではなく、「では自分の地域に適用させるにはどうすればいいのか」「自分ならばどのようなリーダーシップをしていくことができるのか」といったことを考え始める、そんな東北研修を行うことができました。

学院研修はちょうど折り返し地点。50周年式典が終わりこれから収穫感謝の日もあります。まだ学んでいないトピックもいくつもあります。このワクワク感をどうか持ち続けてほしいと願うと同時に、そのために私たち職員はどうサポートしていくかを楽しみながら悩んでいる日々です。

文

大柳 由紀子
副校長／教務主任

共に学ぼう、
農村の未来のために

50周年事業アップデート

☆始まっています。新しいプロジェクト☆

学校林をもっと楽しく！

アジア学院のキャンパスに広大な森林があるのをご存じでしょうか。長年活用されていなかったこの森林を、50周年を機に最大限に活かすための取り組みが始まりました。

朝夕のフードライフワークには、従来の野菜、家畜、炊事に加えて森林管理部門が加わりました。森林を3つのゾーンに分けて活用する計画のもと、学生やボランティアと共に日々整備を進めています。

「自然体験の森①」（仮称、以下同じ）は、いつでも散歩できる「瞑想の小道」を設けたほか、学校等の自然教育プログラムに活用する計画です。「複合農業の森②」は畑の浸食防止に役立っており、ミツバチの巣箱も設置予定です。「気候変動対策の森③」では、ここで生育するクヌギ、笹や竹で炭を作って肥料にすることにより炭素を土に還します。また高木が二酸化炭素を吸収します。このほかにも、キャンパス全体の森林を豊かにするためのプロジェクトが進行中です。

森には自然の知という宝が隠されています。今後も森から学ぶことで持続可能な未来作りを進めていきます。

寄付者御芳名

日頃のご支援に心より感謝いたします

2023年7月1日～7月31（敬称略・順不同）

寄付金がアジア学院に入金された日に基づき掲載しております。入金日は、口座振替の場合はご決済の1ヶ月後、クレジットカードの場合は2ヶ月後です。

サポーター寄付・一般寄付・50周年記念特別寄付

【北海道】三橋修 **【青森県】**木村幸子 **【岩手県】**酒勾節雄（教）奥中山教会 **【宮城県】**根廻頼子 **【山形県】**冨樫俊悦 **【福島県】**杉原義雄 **【茨城県】**本田香織 **【栃木県】**鮎瀬征夫 飯塚仁美 大谷雅代 大森貴子 大柳由紀子 小倉恭子 川上聖子 菊地洋子 吉川宗芳 君嶋照明 木村裕子 駒庭千秋 小山博子 坂入貴子 佐藤範明 沢谷千亜紀 高嶋幸雄 髙柳宏紀 武石晃正 武智明美 田中淳子 谷山實 田村修也・暁美 林真智子 羽山信輝 潘炯旭 菱沼真喜子 McCurley里美 松田一彦 宮岡明子 八木沢弘美 山田公平（教）宇都宮上町教会（教）宇都宮東伝道所（学）さつき幼稚園（教）那須塩原教会（教）西那須野教会（教）矢板教会 **【埼玉県】**浮貝由美 北野啓子 高橋秀之 武真人 千村雅信 戸井田紗耶香 **【千葉県】**金子聡子 佐久間健 佐藤伊一郎 安みぎわ 山崎尚子 山本栄子 **【東京都】**粟谷しのぶ 犬丸敬子 岩切勉 梅澤やよひ 加納貞彦 柄澤真理子 岸まち子 久世陽子 黒田俊介 小泉充也 澤田祥子 志田悦子 嶌信彦・泰子 髙野美惠子 竹野裕子 建元喜寿 富岡徹郎 贄川治樹 浜田めぐみ 平岡昭子 麓治夫 松田浩道 松本いく子 森哲也 山口俊夫 横手靖彦 横山博子 渡邉友香（株）株式会社オーバル・アドバタイジング 国際基督教大学教会（公）聖オルバン教会（カ）聖心会（あけの星修道院）（公）東京聖テモテ教会（バ同）日本バプテスト同盟全国女性会（教）ロゴス教会 **【神奈川県】**天野潤 荒井明子 今川信夫 岩澤裕基 岩谷求 梅澤昌子 遠藤抱一 尾崎久美 鈴木良子 中本尚孝 本田忠行 松島直子 **【新潟県】**荒井眞理 **【富山県】**酒井信治 **【長野県】**青木栄作 西島博 **【静岡県】**武井陽一 山下清二 **【愛知県】**塚田昇 **【滋賀県】**太田宜子 **【京都府】**上田祐未 櫻井鋭子 **【大阪府】**大本和子 川俣茂 見満紀子 陳野友洋 **【兵庫県】**上内鏡子 黒田喜久子 谷佐代子 豊留嘉代 神戸ユニオンチャーチ **【福岡県】**中島菜々子 **【鹿児島県】**大谷ともよ **【沖縄県】**小笠原春野 宮平洋恵

書き損じハガキ

【北海道】小樽友の会 **【福島県】**斎藤仁一 **【栃木県】**（教）宇都宮上町教会 **【千葉県】**松戸友の会 **【東京都】**（教）ひばりが丘教会 **【長崎県】**守山惠子

一品寄付

【福島県】鈴木朝子 **【茨城県】**田中宣之 **【栃木県】**阿部真希子 久保田隆行 高村京子 三宅隆史 マ・メゾン光星 **【東京都】**（バ同）日本バプテスト同盟全国女性会 **【神奈川県】**松本栄子 山本リエ **【愛知県】**小林未希

寄付金実績

合計（7月）	1,584,911円
内50周年特別寄付金	673,000円

所得税法により領収書の発行及び領収日は、アジア学院に入金された日とさせて頂きます。

（医）医療法人（医社）医療法人社団（学）学校法人（カ）カトリック（株）株式会社（教）日本基督教団（キ）日本キリスト教会（公）日本聖公会（公財）公益財団法人（公社）公益社団法人（財）財団法人（社）社団法人（宗）宗教法人（特活）特定非営利活動法人（バ同）日本バプテスト同盟（福ル）日本福音ルーテル教会（有）有限会社

アジアの土
2023年9月15日号（年3回発行）1974年創刊以来通巻192号　発行元◆学校法人アジア学院　発行人◆荒川朋子　編集人◆江村悠子　八木沢淳　題字◆G・デブリーズ

2023 / 10 / 14 / Sat　9:30 - 16:00

51th 収穫感謝の日

Harvest Thanksgiving Celebration

今年は1日だけ!

毎年恒例、豊かな収穫に感謝するアジア学院最大のイベントです。今年は4年ぶりに、予約不要で皆さんをお迎えします！

今年のテーマ
Live・Work・Laugh Toghether!
共生・共働・共笑

入場無料

【会　場】 アジア学院（栃木県那須塩原市槻沢 442-1）
【時　間】開場 9:00 / 礼拝 9:30 / お食事・バザー etc 11:00
【送　迎】送迎バス運行予定
〈行き〉那須塩原駅 西口（バスロータリー）発 09:05
〈帰り〉那須塩原駅行き アジア学院発 15:30
【駐車場】槻沢小学校（予定）
会場へは巡回バスをご利用いただけます。
【内　容】多国籍オーガニック料理 / 収穫感謝礼拝 / ステージパフォーマンス / 展示 etc.

Bulletin Board

事務局通信

教会・学校のクリスマス献金をアジア学院に送りませんか？

毎年クリスマスの時期に皆様にお願いをしている特別献金は、人々のために働くことを願う草の根のリーダーを今後も迎え入れ、「仕えるリーダー」として育成するための重要な財源となります。皆様の教会や学校で集めるクリスマス献金の送り先として、アジア学院の活動に皆様の願いと希望を託してください！

銀行	足利銀行　西那須野支店（普通） 口座番号：　0112403 口座名義：　学校法人　アジア学院
ゆうちょ	記号：　10700 番号：　8002711 口座名義：　学校法人アジア学院

または「アジアの土」に同封の振込取扱票より

職員募集

現在、畜産部門及び野菜作物部門で職員を募集しています。興味のある方、どなたかを推薦してくださる方は至急アジア学院までご連絡ください。

＜募集セクション＞
1．フードライフ課野菜・作物職員（1名）
2．フードライフ課畜産職員（1名）
募集期間：随時（採用者確定次第終了）
採用時期：応相談（遅くとも2024年2月1日）
くわしくはウェブで！
https://ari.ac.jp/jobs

クラウドファンディング **第2弾** 実施中!

「途上国で『土からの平和』をつくるリーダー育成の環境を充実させたい！」目標300万円！
「アジア学院　レディーフォー」で検索！
（10月31日まで）

ARI
〒329-2703 栃木県那須塩原市槻沢 442-1 TEL 0287-36-3111 FAX 0287-37-5833 EMAIL info@ari.ac.jp
学校法人 アジア学院